

# Japan Trip 2011 報告書

HSPH Student Club of Japan

## 目次

◇はじめに	1
◇謝辞	2
◇Japan Trip 2011 概要	4
◇訪問先(日程順)	7
帝京大学 大学院 公衆衛生研究科	
石巻専修大学	
石巻日日新聞	
石巻市立病院	
本吉町立病院	
祐ホームクリニック 石巻	
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター	
WHO 神戸センター	
Happy Town 神戸	
千里津雲台訪問看護ステーション	
あいりん地区(大阪社会医療センター附属病院、西成労働福祉センター)	
大阪大学医学系研究科公衆衛生学教室	
高齢先進国構想会議	
味の素株式会社	
東京ほくと医療生活協同組合 浮間診療所	
武見敬三事務所	
厚生労働省	
◇会計報告	28

## はじめに

「日本の医療システムについて知りたい。」

「日本の文化に興味がある。」

「震災の影響と復興について学びたい。」

「日本食が好き！」

参加者の各国学生からの声の一部です。2011年3月、東北地方を中心に未曾有の大震災を経験しながら、秩序だった救助活動や被災地のケアにおけるゆずりあいの精神等、日本人の「和」を尊重する国民性が世界に伝えられ、驚嘆をもって受け止められたところです。また、日本の文化については伝統的な文化からアニメ等のソフトコンテンツまで、広く関心を持って受け止められており、日本食は世界中で健康食として注目を集めているところです。一方で、我が国は高齢化が急激に進展している国としても知られており、持続可能な社会保障制度の構築が喫緊の社会的課題となっています。

世界有数の経済大国であり、国民皆保険に表される医療制度、地域コミュニティーに根差したソーシャルケアの枠組み、長寿を支える伝統食等、独自の社会制度を持っていながら、他国に十分理解されているとは言い難い、「近くて遠い国」、日本。このような中、ハーバード大学公衆衛生大学院に集まっている各国学生を対象に、日本の文化・社会・公衆衛生について理解を促進すべく、Japan Trip を行いました。卒業後に諸方面での活躍が期待される学生に、我が国への理解・親近感を醸成することは、学生自身にとって有意義であるだけでなく、海外諸国との友好関係の構築にも寄与するものであると確信しています。また、我が国の公衆衛生関係者にとっても、海外の学生から率直な意見をを得ることができ、貴重な機会になったものと思います。ハーバード公衆衛生大学院 Japan Trip が、公衆衛生のさらなる発展に貢献することを願ってやみません。

ハーバード公衆衛生大学院  
Japan Trip 2011 実行委員会一同

## 謝辞

Japan Trip の企画・実行にあたり、多数の方々のご指導とご支援を頂きました。ここに改めて、ご協力いただいた方々に深く感謝いたします。

今回の Japan Trip の趣旨にご賛同頂き、以下の方々からは貴重なご寄付を頂きました。ここにお名前を掲載し、深くお礼申し上げます。

団体・企業(敬称略、五十音順)
味の素株式会社 様
大阪大学医学系研究科公衆衛生学教室
サノフィ・アベンティス株式会社
帝京大学 大学院 公衆衛生研究科
個人(敬称略、五十音順)
朝倉 敬子様
安東 時彦様
今村 英仁(財団法人慈愛会)様
上塚 芳郎様
内田 毅彦様
浦島 充佳様
江副 聡様
大竹 雄二様
小坂 健様
小野 俊介様
岸 玲子様
後藤 あや様
作間 未織様
白井 ころろ様
武見 敬三様
田端 実様
田宮 菜奈子様
辻 洋志様
徳田 安春様
中村 安秀様
成井 和子様

長谷川 敬洋様
星 北斗(財団法人星総合病院)様
梶田 祥子様
山本 英樹様

## Japan Trip 2011 概要

### 目的

HSPHで学生と話していく中で、日本が世界に発信できるコンテンツとして、「超高齢化社会」というキーワードが浮かびました。我々は歴史上、世界の誰もを経験していない超高齢化社会に突入して、日本の挑戦を各国が注視している状況になっています。今回のTripでは、なぜ、このような高齢化社会に世界でも類を見ないスピードで突入していったのか、そして超高齢化社会に対する公衆衛生分野、医療・介護・福祉分野における問題点や取り組み、この難問をどのように克服していくのかについて、各国の学生達と一緒に考えることを目的とし、さらに、石巻、神戸という2つの被災地を訪れて、地域保健、特に高齢者へのサポートに対して、どのように医療システムや地域コミュニティの再構築がインパクトを与えていくのかについても考えました。

### 概要

<日程>平成24年1月8日(日)～1月18日(水)

<参加者> ハーバード大学公衆衛生大学院の学生・研究者約15名

<主な訪問先>

厚生労働省:介護保険制度、がん対策

東京ほくと医療生活協同組合 生協浮間診療所:在宅医療

千里津雲台訪問看護ステーション:高齢者に対するリハビリテーション・介護サービス

Happy Town 神戸:高齢者に対する介護・福祉サービス

WHO神戸センター:世界における高齢化社会の現状と日本

大阪あいりん地区:社会格差地域での公衆衛生問題と高齢化の影響

高齢先進国モデル構想会議:高齢化地域に対する企業コンソーシアムによる取り組み

味の素:日本の伝統的な食文化(うまみ・だし)

震災被災地:石巻・南三陸・本吉 地域社会、保健医療システムの復旧

## 日程概要

日付	内容	宿泊地
1/8 (日)	午後:東京 ホテル集合	東京
1/9 (月)	日中:帝京大学公衆衛生大学院 午前:各国の災害医療の発表、学生交流会 午後:Harvard Faculty による講義 Harvard Club of Japan交流会	東京
1/10 (火)	午前:東北へ移動 昼:石巻専修大学 午後:石巻日日新聞、石巻市立病院、避難所見学	南三陸
1/11 (水)	午前:気仙沼市立本吉病院 午後:祐ホームクリニック、松島観光	東京
1/12 (木)	午前:神戸に移動 午後:阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター WHO 神戸センター、Happy Town 神戸	大阪
1/13 (金)	午前:千里津雲台訪問介護ステーション 午後:あいりん地区視察 夜:大阪大学公衆衛生学教室 学生発表、交流会	大阪
1/14 (土)	自由観光	
1/15 (日)	自由観光	東京
1/16 (月)	午前:高齢先進国モデル構想会議(富士通) 午後:味の素社、武見敬三事務所	東京
1/17 (火)	午前:築地観光、東京観光 午後:生協浮間診療所 夜:フェアウェルパーティー	東京
1/18 (水)	午前:厚生労働省	

### アドバイザー

イチロー・カワチ教授(日本で生まれ、ニュージーランドで医学博士を取得した社会疫学の権威)

マイケル・ライシュ教授(国際保健分野の権威であり、ハーバード大学ー日本医師会武見プログラムの担当教授)

### 協力

帝京大学公衆衛生大学院

大阪大学公衆衛生学教室

## 参加者一覧

Name	Country	Course	Department
EunMi Kim	Korea	MS	Health policy and management
Maia Fedyszyn	USA	MS	Health policy and management
Katyayni Seth	India	MPH	Global Health
Joao Fontes	Brazil	MPH	Quantitative Methods
YiFan Xu	China	MS	Global Health
Solomon Chen	Taiwan	PostDoc	Takemi Fellow
Zarif Jabbar-Lopez	UK	MPH	Quantitative Methods
Juan Xu	China	Doctor	Nutrition
Anna Potapov	Canada	MPH	Quantitative Methods

## Japan Trip 2011 実行委員会メンバー

Name	Course	Concentration
Akihiro Nishi**	Doctor	Society, Human Development and Health
Ayae Yamamoto	MS	Epidemiology
Fumiaki Imamura	Postdoc	Epidemiology
Goro Maruno*	MS	Environmental Health
Hanae Hayashi	MS	Society, Human Development and Health
Hiraku Kumamaru**	Doctor	Epidemiology
Naho Morisaki	MPH	Quantitative Methods
Ryota Konishi* **	MS	Health policy and management
Tsuguhiko Kato	MS	Society, Human Development and Health
Yasumasa Yamamoto*	MS	Health policy & management
Yosuke Takasaki*	MS	Society, Human Development and Health
Yusuke Tsugawa	MPH	Health policy & management

\*:日本随員メンバー

\*\*：帝京HSPHプログラムメンバー

# 訪問先

## 1月9日(月) 第1日目

<b>訪問先</b>
帝京大学公衆衛生大学院 (板橋キャンパス)
<b>日時</b>
1月9日(月曜日) 10時00分-13時00分
<b>訪問目的</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>● 大規模災害における医療支援について各国の実例を挙げて学ぶ。</li><li>● 東日本大震災における医療支援の状況について学ぶ。</li><li>● 日本の公衆衛生大学院の学生との意見交換。</li></ul>
<b>訪問概要</b>
<p>Japan Trip 参加者および、日本人学生により 11 ケースが紹介された。それぞれの国ごとに、様々な災害の概要と医療・公衆衛生による Emergency Response について紹介した。東北の被災地を回る前に、一般的な対応について知ることができた。</p> <p>四川大地震、台湾地震、英国爆弾テロ、チリ落盤事故、ブラジル豪雨・土砂災害、ハリケーンカトリナによる洪水、韓国オイル流出事故、上海ビル大火災、ガンジス川周辺洪水対策、東日本大震災での医療支援・公衆衛生対策</p> <p>また日本人学生と医療制度の違いや Public Health Field でのキャリアデザインについて意見交換した。</p>


## 1月9日(月) 第1日目

<b>訪問先</b>
Harvard-Teikyo Program (帝京平成大学キャンパス)
<b>日時</b>
1月9日(月曜日) 15時00分-20時00分
<b>訪問概要</b>
<p>HSPH Facultyによる講義</p> <p>Prof. Julie Buring (Epidemiology)</p> <p>Prof. Douglas Dockery (Environmental Health)</p> <p>Ass.Prof. Ken Stanley (Clinical Trial/Biostatistics)</p> <p>Prof. Ichiro Kawachi (Social Epidemiology)</p> <p>Harvard-Teikyoプログラムは、2011年度より帝京大学公衆衛生大学院とHSPHの冬季プログラムで、大学院生だけでなく、一般の学生や医療従事者、社会人に枠を広げて行われた。数日間の集中講義と試験、レポート提出を課しているプログラムである。当日は、このプログラムのレセプションとして、上記のHSPH Facultyによるショートレクチャーが行われた。カワチ教授からは、健康や長寿における国際比較を元に、日本のPublic Healthについての説明があった。</p> <p>Harvard Club of Japan/帝京大学共催の懇親会</p> <p>来場者にJapan Tripについて紹介すると共に、参加したHSPHやHarvard Alumni、帝京大学のFacultyや公衆衛生系の日本人研究者達と親交を深めることができた。</p>


## 1月10日(火) 第2日目

<b>訪問先</b>
石巻専修大学
<b>日時</b>
1月10日(火曜日) 11時30分-13時00分
<b>訪問概要</b>
<p>東北新幹線で仙台駅に移動して、バスで石巻市に入った。道中、津波の被害を受けた場所を車中より確認して、被害の大きさ、復旧の進行状況を見た。</p> <p>石巻専修大学では、大津幸一先生、若月昇先生、相馬弘年先生より、東日本大震災の概要と石巻での被災状況についての解説を受けた。その後に、坂田隆学長より石巻専修大学の震災時の状況や、大学や学生が行った被災地支援活動についての説明を受けた。</p>


## 訪問先

石巻日日新聞社

## 日時

1月10日(火曜日) 13時30分-14時00分

## 訪問概要

午後の行程は石巻市議会議員の高橋誠志議員、西條正昭議員、後藤兼位議員のアテンドを受け、まず石巻日々新聞社を訪問した。石巻日日新聞社は、手書きの壁新聞を震災翌日より6日間、市内の避難所6箇所に貼り出して、復旧状況や生活情報を伝えた。これらの取り組みは、ワシントン・ポストを通じて、世界に発信され、一部の壁新聞は、ニュースジャーナリズム博物館に保存されることになった。これらの取り組みや、職員が経験した当日の話をもとに、石巻日日新聞社常務取締役/報道部長の武内宏之様に説明いただいた。HSPH 生は、実際の壁新聞や津波により浸水した建物を見ることで、当時の状況を理解することができた。



## 訪問先

石巻市立病院

## 日時

1月10日(火曜日) 14時00分-15時00分

## 訪問概要

石巻市立病院 伊勢秀雄院長が病院内部を案内して、地震と津波による被災の実情を伝え、また被災直後から病院撤退までに至る病院の対応と問題点についての説明を受けた。電力も止まっている病院において、自家発電機を回しながら、病床の壁にスライドを投影して説明していただいた。スライドの内容に加えて、その廃墟と化した病院での時間は、震災9ヶ月後というよりは被災直後の状況が止まっていると思わせるものであった。



## 訪問先

石巻市 仮設住宅

## 日時

1月10日(火曜日) 16時00分-17時00分

## 訪問概要

石巻市が運営する仮設避難所の造りと問題点、住民のニーズについての説明を受け、健康問題や衛生対策についても学ぶことができた。特に訪問時には、冬期の保温対策を強調されていた。



## 1月11日(水) 第3日目

<b>訪問先</b>
気仙沼市立本吉病院
<b>日時</b>
1月11日(水曜日) 9時00分-9時30分
<b>訪問概要</b>
<p>気仙沼市立本吉病院は仙台市から約80Km北に位置し、太平洋から約2Kmにある病院である。震災時には、地震による建物・設備の直接的な破壊よりも、河津波の発生に伴う浸水により1階の病院機能が全て失われてしまった。すでに一部の病院機能は復旧して、外来患者診療を行なっているものの、病院内部には未だに泥で汚れたカルテや診療器材がそのまま残っている状態であった。被災後に就任した川島実院長より、現状の病院と復旧状況について、事務長より被災当時の状況や現在の病院内部について説明を受けた。典型的な僻地における中小病院がどのように機能して、そして震災から復興してきたかについて学ぶことができた。</p>
 

## 訪問先

祐ホームクリニック石巻

## 日時

1月11日(水曜日) 12時30分-13時00分

## 訪問概要

祐ホームクリニックは、東京に本拠地がある医療機関で、現在は石巻にもオフィスを構えて、主に石巻の仮設・復興住宅の住民を中心に在宅診療を行なっている。行政やヘルスケア企業とコンソーシアムを組んで様々な事業を開発している異色の診療所である。園田事務長より石巻における仮設住宅での高齢者を主に対象とする在宅医療の状況と、大手ベンダーと共同で開発したGPSを利用する在宅医療情報システムについての説明を受けた。これらは従来の在宅診療の形態にITによるイノベーションを取り入れており、参加者から多くの質問が寄せられた。



1月12日(木) 第4日目

**訪問先**

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

**日時**

1月12日(木) 11時30分-13時00分

**訪問概要**

東北地方での、地震・津波被災による瓦礫が残る街から、大地震から完全に復興した街へと移動して、阪神淡路大震災後の復興の状況について学び、さらに語り部の方々から、被災時の状況についての説明を受けた。津波被害が中心の石巻と、地震による被害が中心の神戸との比較、都市部と農村/漁村部との比較などができ、これらの違いに伴う医療支援や公衆衛生サポートの違いについても議論した。訪問後に、大阪大学の学生と近くの食堂で昼食を取りながら、親交を深めた。



## 訪問先

WHO 神戸センター

## 日時

1月12日(木) 14時00分-15時30分

## 訪問概要

WHO Kobe センター アレックス・ロス氏より、センターについての簡単な紹介があった後、WHO オフィサーの狩野恵美先生より、WHO が進める高齢化社会における高齢者にやさしい街造り計画についての講義を受けた。講義に加えて、WHO でのインターンや就職などのリクルートメントの話も聞いた。



## 訪問先

Happy Town 神戸

## 日時

1月12日(木) 16時00分-19時00分

## 訪問概要

神戸市保健福祉局 高齢福祉部 介護保険課 介護予防推進係の霜川卓之様より、震災後の孤独死の予防事業や高齢者の見守り事業の説明についての説明を受けた。震災によって地域の高齢化が急速に進むメカニズムと、行政、民間企業、市民が一体となって関わっている取り組みを紹介された。また、この取組自体を東北の被災地に紹介していること、また近い将来の日本の各地でも同じような取り組みを始める必要があることを話した。後半は、ハッピータウン神戸の國生直也施設長の案内で、高齢者向けデイケアとショートステイの実情を見学した。さらに施設の御厚意で、入所者と一緒に夕食をとることができた。この試みは、HSPH 生に日本の給食文化を味わってもらふこと、ヘルシーフードだけでなく、献立の意味や盛り付けの工夫も体験してもらふ意図があった。80歳、90歳代の方々と一緒に会話をしながら、食事を楽しむことができた。



## 1月13日(金) 第5日目

### 訪問先

千里津雲台訪問看護ステーション

### 日時

1月13日(金) 10時00分-12時00分

### 訪問概要

千里津雲台訪問看護ステーションの石山満夫所長より、介護保険制度についての概要を学び、その介護保険を利用した訪問看護サービスについて、3～4例の実例を紹介していただき学ぶことができた。また高齢者のレクリエーションサークルを主催しているボランティアの方々から、地域における高齢者の交流とその問題点などについての説明を受けた。通所リハビリテーション施設の概要と、実際のリハビリテーション風景を見学することができた。介護保険制度の仕組みやそのサービスの内容について、各国からの参加者の質問が殺到していた。また途中に石山先生より、手毬寿司の差し入れがあり、参加者はその美しさに驚いていた。



## 訪問先

あいりん地区

大阪社会医療センター附属病院、西成労働福祉センター

## 日時

1月13日(金) 13時30分-16時00分

## 訪問概要

NPO ヘルスサポート大阪の井戸武廣様より、あいりん地区でのホームレス対策、健康問題についてのお話を伺い、収容施設の見学やホームレスが集う三角公園周辺を案内していただいた。さらに西成労働福祉センターにて、ホームレスへの就労支援と問題点を、大阪社会医療センター附属病院での結核対策や DOT 療法の現場、入院施設の見学を行った。長年の不況によるホームレスや低所得者における社会格差の拡大と高齢化の進行によって、結核や感染症などの急性傷病に加えて、慢性疾患の急性増悪等の健康問題が拡大していく現状を見ることができた。



**訪問先**

大阪大学公衆衛生学教室

**日時**

1月13日(金) 17時00分～

**訪問概要**

Japan Trip に参加している HSPH 学生全員(外国人・日本人学生)が、それぞれの専門分野の紹介や、現在行なっている研究やプロジェクトなどを説明した。日本に比べて、Public Health の守備範囲の広さに大阪大学の学生も驚いているようで、色々と質疑応答を行った。また発表後、大平哲也准教授の挨拶と、大阪大学の学生、大学院生、ポスドク、教員などと交流会を開き、親交を深めた。



## 1月16日(月) 第8日目

<b>訪問先</b>
高齢先進国 構想会議
<b>日時</b>
1月16日(月曜日) 10時00分～12時00分
<b>訪問概要</b>
<p>高齢先進国モデル構想会議理事の生川慎二氏より、高齢化社会に向けての新しいビジネスモデルについての説明があった。基本的概念として、高齢者をコミュニティーで支える包括的なサービスを医療、介護、福祉に加えて、行政、一般事業者を含めたコンソーシアムのもとで行う構想について紹介があった。現在は、被災地で実際に運用しており、住民情報の共有と各ステークホルダーの連携が重要であると話されていた。このようなモデルを実用化させ、将来はアジア圏内にも規模を拡大する方向性である。これまで医療やPublic Healthの組織を中心に訪問したが、ビジネス関係の話は参加者にとって斬新であり、活発な質疑がなされた。</p>


## 訪問先

味の素株式会社 (財)味の素食の文化センター

## 日時

1月16日(月曜日) 13時30分～16時00分

## 訪問概要

味の素株式会社 (財)味の素食の文化センターを訪問して、日本の健康と長寿の秘訣である食文化について説明を受けた。日本の食文化を支える「うまみ」の概念は西洋諸国にはなく、実際に「だし」がどのように効いているのかを実食で感じながら、学ぶことができた。途中、グルタミン酸ナトリウムの安全性や効果について、厳しい質疑応答があったが、実際に舌の味覚を感じながらの講義は参加者にとって楽しく過ごすことができた。また講義の後には、併設している「食とくらしの小さな博物館」にて、一般的な家庭や台所の変遷と食事内容について学び、さらに屋外にある日本庭園と家屋を見学した。一粒で3度の美味しい経験ができた。



## 訪問先

武見敬三事務所

## 日時

1月16日(月曜日) 17時00分～19時00分

## 訪問概要

武見敬三先生よりランセット日本特集号の話と、今後のグローバルヘルスについての講義を受けた。また参加者の自己紹介とともに、参加者の興味や質問に対して、大局観を示しながら、先生の考えや価値観を共有していただいた。トリップの中では、高齢社会に対して各論的に議論することが多かった中、総論的な話や将来展望などについて議論できたことは非常に好評だった。



1月17日(火) 第9日目

午前中は各自、東京観光

東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニットの古屋絢子さんのアテンドの元、新宿・渋谷エリアを案内していただいた。

<b>訪問先</b>
東京はくと医療生活協同組合 生協浮間診療所
<b>日時</b>
1月17日(火曜日) 14時00分～17時30分
<b>訪問概要</b>
生協浮間診療所で行われている訪問診療に同行して、実際の高齢者に対する在宅医療と彼らが住んでいる生活環境を見学した。各参加者は2、3名のグループに分かれて、3件ほどの訪問診療に随行した。清田美穂先生、永田拓也先生の説明のもと、在宅医療の現場を見ることができた。また訪問を待機している間は、診療所内で行われている外来診療を見学した。藤沼康樹先生と阿部佳子先生より、各患者背景や問題点についての説明を受けた。短時間であったが、日本における外来診療、ならびに在宅医療を垣間見ることができた。また診療終了後は、藤沼先生の御厚意で、意見交換会を開いていただいた。



## 訪問先

フェアウェルパーティー

## 日時

1月17日(火曜日) 19時00分～

## 訪問概要

トリップ参加者、日本人サポートメンバー、支援してくれた方々、HSPHのアラムナイが集まって、HSPHのこと、トリップのこと、日本のことなど色々な話ができた。最後に参加者ひとりひとりからのスピーチの時間があったが、途中で感極まって泣いてしまう人、歌をプレゼントしてくれた人など、それぞれトリップに対しての思い出を熱く話してもらった。



## 1月18日(水) 第10日目

<b>訪問先</b>
厚生労働省
<b>日時</b>
1月18日(水曜日) 9時30分～12時00分
<b>訪問概要</b>
<p>厚生労働省の職員で、HSPHアラムナイである堀裕行課長補佐(老人保健課)と秋月玲子課長補佐(がん対策推進室)より、日本の医療政策について、以下の講義を受けた。</p> <p>老人保健課 堀補佐 「日本の高齢者福祉の現状・課題と施策について」</p> <p>がん対策推進室 秋月補佐 「日本のがん対策の現状・課題と施策について」</p> <p>トリップをラップアップするような講義で、これまでの訪問見学で感じた疑問点や将来の日本の政策の方向性についての活発な質疑応答があった。</p> <p>厚生労働省の訪問修了後、今年度のJapan Tripは解散することになった。</p>



## 会計報告

入金	円換算(\$ 1= 75.86 円)
ジャパントリップ参加費	204,822
寄付金(昨年からの繰越を含む)	2,122,441
合計	2,327,263
出金	円換算(\$ 1= 75.86 円)
宿泊費	1,263,146
飲食費	172,044
交通費	501,930
各訪問先への贈呈品等,報告書お礼等	65,800
合計	2,002,920
収支	
	324,343

\* 2012年1月10日 米ドル TTB(Telegraphic Transfer Buying:対顧客電信買)レート 75.86

残金は翌年度以降の HSPH Student Club of Japan ならびに Japan Trip の活動費に活用する予定です。

2012年4月  
HSPH Japan Trip 会計  
山本康正